

意見の申立て及びその対応

中期目標の達成状況に関する評価結果

申立ての内容	申立てへの対応
<p>【評価項目】 I 教育に関する目標 3. 優れた点、改善を要する点、特色ある点 (改善を要する点)</p> <p>【原文】 「・・・特に企業体験が最も重視される工学部においてもインターンシップを通しての産業界との連携強化が見えないことから、・・・」</p> <p>【申立内容】 削除願いたい。</p> <p>【理由】 工学部でインターンシップを通じて産業界との連携強化を図っていることは、以下の根拠資料から明らかである。 1. 工学部では、数多くの「キャリア教育・インターンシップ関連の開講科目」を開講し、学生のキャリア意識の向上に努め、実践教育を強力に推進している。特に、「創成プロジェクト」、「安全工学セミナー」および「産学官連携プロジェクト実習」を開講し、創造性豊かな技術者を志す学生の教育を産学官が共同して行っている（長崎大学の中期目標の達成状況報告書中の資料 p. 8, 教1-2-1-C 参照。さらに、受講者数については、工学部の現況調査表(教育)の別添資料2-1を参照)。 2. 工学部の平成19年度のインターンシップを行った学生数は156名（長崎大学の中期目標の達成状況報告書中の資料 p. 24, 教1-6-1-A 参照）である。工学部内の全ての学科が、このインターンシッ</p>	<p>【対応】 意見のとおりとする。</p> <p>【理由】 達成状況報告書における当該中期計画の記載だけでは取組状況について確認できないものの、実績報告書の関連する記載から状況が確認できたため、以下のとおり修正する。</p> <p>「中期計画「学生の職業意識向上のために、キャリア教育を充実させるとともにインターンシップ等を通して産業界との連携を強化する」について、学部による取組状況にかなりのむらが見られ、全学的な取組としては不十分であることから、改善することが望まれる。」</p>

<p>プ（工場実習等）科目を必修または選択科目として開講しており、このインターンシップを行った学生数は、受講対象者（3年次）の約36%になる。平成16年度以降の各学科の学生のインターンシップ単位取得状況は、工学部の現況調査表（教育）の別添資料2-1に示している。</p> <p>3. 学生がインターンシップに行って産業界で実地体験するという一方向教育だけではなく、企業の研究者や技術者を大学に招いて、学生への実践教育を行い、キャリア意識の向上を高めるために開催するキャリア討論会の開催実績、参加学生数が増加している（工学部の現況調査表（教育）の別添資料2-1のキャリア討論会の実施状況 参照）。</p> <p>上述のことから、工学部において産業界との連携強化が十分実施されていると判断できる。</p>	
--	--

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

学部・研究科等番号・名称：06・工学部

申立ての内容	申立てへの対応
<p>【評価項目】 I 教育水準 4. 学業の成果</p> <p>【判断理由】</p> <p>【原文】 「・・・平成19年度の留年率8.8%、退学率3.0%と全国平均よりやや高くなっているものの、・・・」</p> <p>【申立内容】 削除願いたい</p> <p>【理由】 平成19年度における長崎大学工学部の退学率は2.0%（大学評価・学位授与機構 大学情報データベース 参照）であり、原文中の数値が間違っている。 また、長崎大学工学部の平成19年度における留年率は8.8%、退学率は2.0%であるのに対し、全国の大学の工学系の平成19年度における留年率の平均は9.0%、退学率の平均は2.6%であり、長崎大学工学部の数値(率)はいずれも全国平均の数値(率)を下回っている。</p>	<p>【対応】 意見のとおりとする。</p>